

笠間地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年5月8日(金)19:00～
開催場所	笠間コミュニティセンター
参加者	10名(市長、まちづくり協議会、地区振興協議会、自主防災協議会、社会福祉協議会ほか)
選択トピック	防災力アップを地域力アップに 1. 防災マニュアルの整備と実践化 2. 安否確認体制の整備(結ネット全戸導入)



2. 主な議題と意見

(1) 防災マニュアルの整備と実践化



① 現状

- 笠間地区自主防災協議会の基本的なマニュアルと各町の初歩的なマニュアルが既に整備されており、これらは各自治体のマニュアルを参考にしながら作成されている。グレードアップしていく必要性を感じている。

② 課題

- **避難安否確認救命マニュアル**
笠間地区は海岸から内陸部にかけて避難の仕方がかなり多様化しており、通常のマニュアルを地区の実情に落とし込む必要がある
- **避難所設営運営マニュアル**
コミュニティセンターをどのように区分けするか、感染者など特別な配慮が必要な避難者の受け入れ体制が未整備である
- **地区支部職員の配置課題**(職員を認識できない)
防災訓練は日曜開催のため、都合がつかない職員が多く、参加できない状況がある(一般住民が地区支部職員を認識できていない)
- **災害時の防犯体制**
過去の震災時に、避難した家屋から家財道具の盗難された事例あり、防災訓練時に対策を共有しておく必要性を感じる

- 炊き出し訓練
福祉協力員の研修に災害時の簡単レシピが共有できないか考えている

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 訓練を通じた改善**
危機管理課が地区と一緒に訓練を重ねながら、実践的なマニュアルへの改善を支援する
- 地区支部職員との連携体制構築**
5月下旬に地区支部職員、コミュニティセンター職員、学校職員との顔合わせを実施、顔の見える関係を作っていく
- 地元職員の優先配置**
基本的に地区に住む職員または地区出身者を地区支部職員として配置
難しい場合は、近隣の地区に住む職員を充てている
道路や下水道などのインフラ担当職員は復旧復興作業に優先的に配置されるため、地区支部職員に充てられない現状があり、ご理解いただきたい
- 避難所受付システムの導入**
令和8年度中にマイナンバーカードや運転免許証で受付できる機械をコミュニティセンターに導入し、避難者情報の一元管理を目指す
- 防災訓練での実践**
11月8日の防災フェスタで避難所開設訓練を実施し、マニュアルを実践的に検証
白山警察署へパトロールを防災訓練の一環として取り組めないか相談

(2) 安否確認体制の整備(結ネット全戸導入)



① 現状

- ・ 笠間地区は白山市で初めて「結ネット」を導入している
- ・ **結ネットの機能**: 安否確認機能、回覧板・アンケート機能、情報発信機能
- ・ 小松市、野々市市、金沢市でも導入されており、全国的に広がっている
- ・ 防災訓練時に結ネットで安否確認を実施した際、迅速に安否を確認できた実績がある

② 課題

- ・ 現在は一部の住民のみが利用している状態
- ・ 災害時に有効に機能させるには、**全戸導入が必要**
- ・ 72 時間以内の救命活動が災害対応の最重点であり、迅速な安否確認が命を守る
- ・ システムの応答がない人もいるため、個別確認による短期間での把握が必要

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ **導入に向けた市民アンケートを実施予定**
6月に全町内会長と市民 2,000 人を対象にアンケートを実施、9 月に結果報告予定
 - ・ **利用料無料化**
システム利用料は市が負担（通信料は利用者負担）
 - ・ **他システムとの比較検討**
結ネット以外の選択肢も検討しながら、最適なツールを選定する
-

3. まとめ

笠間地区は、災害時にも各種団体が連携して助け合える地域づくりを目指し、防災フェスタでは、実際に被災体験のある方を講師に招いた講演会やAED講習会、防災用品の実体験を実施するなど、地域住民の意識を高める事業に取り組んでいる地域です。

今回のミライ会議では、実践的な防災マニュアルの整備とデジタルツール（結ネット）による全戸安否確認体制の2つの課題について、具体的な話し合いを行いました。

市としましては、複数の訓練を通じて、実際に機能するマニュアルの作成、地区支部職員との顔合わせ、結ネット全戸導入に向けた推進など、課題解決に向けて努めていくことを確認しました。

